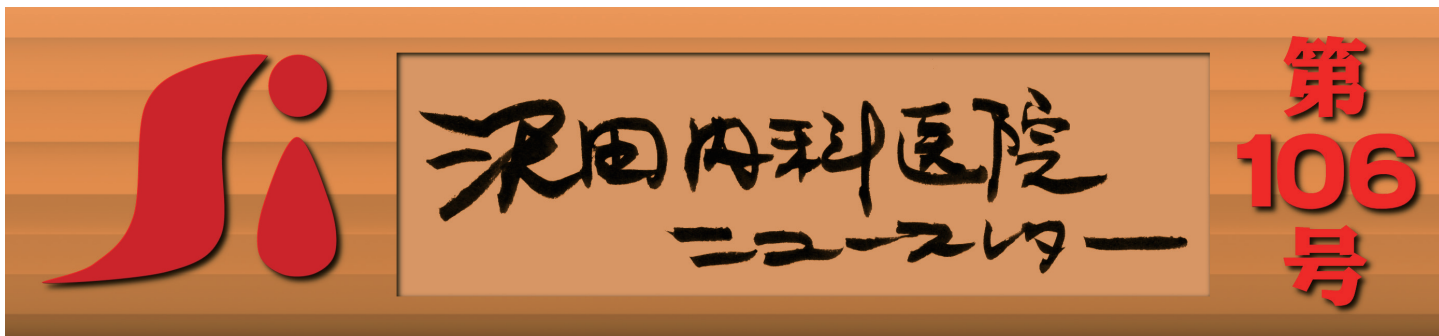




木村温子先生が地域医療研修

6月の1ヶ月間、弘大附属病院の研修医、木村温子先生が地域医療研修を行いました。

沢田内科医院のような小さな診療所では病気の8割は患者さんの話を聞いて診断しています。大きな病院では、どうしても検査に頼ってしまうので、地域医療研修では病歴と身体所見を適切にとることに重点を置きました。つまり、患者さんの話を詳しく聞き出すことを目標にしました。

五所川原出身の木村先生は、津軽弁には全く不便がありません。隣の診察室で聞いていましたが、初めての患者さんともちゃんと話をしていました。しかし、患者さんの訴えに関連することがらを十分に聞き出すことは不十分でした。そこで、診断に役立つ事項を患者さんから聞き出すためのコツを教え、それを実行してみました。最終的には、話を



詳しく聞くだけで、体の中で何が起きているかを知ることが出来るのを実感したはずです。

診察の仕方も改めて確認してみました。肝臓や甲状腺を触ったり、器械に頼らない所見の取り方を復習しました。腎臓はこれまで触ったことがなかったようでした。また、糖尿病患者さんの神経障害の診察の仕方もきちんと覚えました。

将来は皮膚科医になるのが希望のようでした。しかし、患者さんとコミュニケーションをとることが上手い木村先生は、内科医になった方が楽しい外来診察が出来るのではないかと思います。



いよいよ胃がん検診は内視鏡で！！

弘前市の胃がん検診は、この8月から内視鏡検査でも出来るようになりました。原則として、胃がん検診はレントゲン検査による検診ですが、全国的には内視鏡検査でも行われています。

弘前市医師会は弘前市と胃がん内視鏡検診の実施について話し合いを進めてきました。内視鏡検査の方が胃がん発見率が高いこと、内視鏡治療ができる胃がんは内視鏡検査の方が発見しやすいこと、放射線被曝の問題、などから胃がん検診をレントゲン検査から内視鏡検査にすることを弘前市に提案してきました。

弘前市では平成26年から胃がんリスク検診を行ってきました。このデータによると、40歳の弘前市民のピロリ菌の感染率は約20%でした。この結果でも確認されましたが、ピロリ菌に感染していない8割の胃がんリスクが非常に低い人たちに放射線を使った胃がん検診を行うことの妥当性が問われています。胃がん検診の対象年齢は40歳以上ですので、毎年、胃がんリスクが低い人たちが対象となって検診を受けることを勧奨されることになります。そこで、医師会としてはレントゲン検査での被曝を抑え、内視鏡検診を行うことを弘前市に提案していたのです。

内視鏡検診にする理由として医療技術の進歩があります。これまでは、胃がんはどんなに小さくても開腹手術が必要でした。しかし、内視鏡の技術が進歩するに従い、小さい胃がんは開腹手術をすることなく内視鏡で処置できるようになったのです。ある協会けんぽ組合によると、胃がんの内視鏡手術と開腹手術は3:2で内視鏡手術が多いとのことでした。弘大消化器血液内科で1年間に行われている内視鏡手術は約100件です。外科手術がどれくらい行われているのかは私は知りませんが、東北大学の先生の話では、胃がんが内視鏡で手術されていることと、胃潰瘍の治療の進歩で手術が少なくなり、全体の胃の開腹手術はかなり少なくなっているとのことでした。

沢田内科医院で、内視鏡手術をお願いしたのは、平成28年が4人、平成29年が6人でした。レント

ゲン検査では見つからないような胃がんが内視鏡検査で見つかっているのです。国立がん研究センターではがん死亡数の予測を行なっています。それによる胃がんの予測死亡数よりも、実際の胃がん死亡数は少ないのだそうです。その原因としてピロリ菌検査が考えられますが、ピロリ菌の除菌で死亡数が減少する効果が現れるには年数が少なすぎるのだそうで、胃内視鏡検査数が多くなったために、胃がんが早く見つかって死亡数が減少しているのであろうと推測されています。ちなみに、沢田内科医院では、5年前から胃と大腸のバリウムによるレントゲン検査は行っていません。

胃がん内視鏡検診は、8月から行われます。対象は50歳以上の偶数年齢の人です。対象者には弘前市から受診券が送られて行きます。今後、ピロリ菌と関連させた検診に発展させて行く予定です。

医療従事者講演会で直也の座長

弘前市医師会は、2年前に今村憲市先生が会長に就任すると、学術団体としての活動を重視するようになりました。その中で、医療従事者講演会という新しいシリーズが開始され、2年間で10回程度開催されました。

毎回100人以上の医師、看護師、検査技師など病院に勤務する医療従事者が参加しています。

最近では170人の参加者があり、たくさんの人たちが勉強のために集まっています。

私の長男の直也は、弘大消化器血液内科に勤務しています。消化器が専門ですが、特に肝臓や胆のう臓器を専門としています。大学に所属していると研究テーマを持ちますが、肝臓をテーマとして医学博士の論文を書きました。以前は、肝臓から十二指腸へ胆汁を送る胆管に石が貯まって黄疸になると、外科でお腹を開けて手術をしていましたが、現在では、内視鏡手術でお腹を開けずに対処できるようになりました。臨床では、このあたりのことを専門にしています。

10回目の講演会は肝炎を主題としてアートホテルで開かれました。講演会では、講演する人を紹介して司会をする座長という役割があります。弘前市医師会が主催する講演会だったこともあり、今回、直也が講演して私が座長をするということになりました。

肝炎の専門家は大学にしかいませんので、今回の講演会では弘大消化器血液内科に講師をお願いし、遠藤哲先生と直也が講演することになったのです。

今村会長の話では、弘前市で親子で座長と演者という関係で講演会が行われたことは、これまではなかったことだということでした。親が子どものことを公式の場で紹介するというのは、ちょっと照れくさかったのですが、これも名誉なことだと思い役目を果たしました。

第10回 弘前市医師会医療従事者学術講演会

謹啓 時下、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さてこの度、下記のテーマにて講演会を開催させていただき運びとなりました。つきましては万障お繰り合わせの上、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

日時: 2018年6月21日(木) 19:00~20:30

会場: アートホテル弘前シティ 3F『トバース・ガーネット』

弘前市大町1-1-2 TEL 0172-37-0700

開会挨拶 弘前市医師会 会長 今村 憲市 先生

19:00~19:30【2演題 各15分】

【一般演題】テーマ: 様々な肝炎診療について

座長: 弘前市医師会 副会長 澤田 美彦 先生

① 一般開業医におけるC型慢性肝炎の治療

演者: 消化器内科 中畑クリニック 院長 中畑 元 先生

② 薬剤性肝障害 ~肝機能障害の評価~

演者: 弘前大学医学部附属病院 消化器内科 助教 澤田 直也 先生

19:30~20:30

【特別講演】

座長: 弘前市医師会 会長

今村 憲市 先生

『B型慢性肝炎の治療

~津軽地方のB型肝炎患者の特徴を踏まえて~』

演者: 弘前大学医学部附属病院 消化器内科 講師

遠藤 哲 先生

※ 本会終了後に情報交換会を行って頂きます。
※ 本会は日本医師会生涯教育講座に係る認定講座となっており、日本医師会生涯教育カリキュラムコード(12:地域医療,27:黄疸)に係る認定講座です。(1.5単位)

ギリアド担当: 中村 竜一
連絡先: 070-2158-1064
ryuichi.nakamura@gilead.com



共催: 弘前市医師会 ギリアド・サイエンス株式会社

教育委員会の仕事で留守に

弘前市の教育委員になって3年目になりました。就任時の約束で、通常の会議はほとんど医院が休診の水曜日と金曜日の午後に設定してもらっています。しかし、岩木庁舎での会議ではなく、直接小中学校を訪問する学校訪問は午前からです。医院を留守にする必要があります。

幸いにも、出身医局である弘大消化器血液内科が支援してくれますので、留守にする時は代わりに診察をお願いしています。先輩の木村あさの先生にも手伝ってもらっています。

弘前市には小学校が34校、中学校が16校あります。この他に、弘大教育学部附属小中学校と聖愛中学校、県立の特別支援学校などがありますが、弘前市教育委員会が関与するのは市立小中学校50校です。関連する施設として、教育センターとことばの教室があります。小中学校とこれらの施設を毎年見て回るわけですが、約3分の1が7月に行われ、10月に残りの学校訪問が予定されています。

学校訪問というと、現場の先生方はお客様を迎えるためによそ行きの姿を見せる面があるとは思いますが、実際に学校現場を見て回り、校長先生たちの話を聞いてみて初めて理解できることが少なくありません。

教育委員会では、渡された資料を見ながら幹部職員

の説明を受け、いろいろなことを判断することになります。私は、教育に関連しない分野から選ばれていますので、学校現場を知らないという前提で、これまでの経験と知識を基に意見を述べています。しかし、学校現場を知らない私は、的確に判断しているのか疑問に思うことが少なくありません。そこで、学校訪問で現場を見て歩くことで、委員会での発言が机上の空論にならないようにしようと思っています。

しかし、学校訪問に出掛けてみると、教育以外からの委員と言いながら、弘前市医師会看護専門学校の学校長ですし、これまで弘高と南高校の学校評議員を通算6年間務め、医学部や新人医師の教育にもあたっていますので、どうしてもこれらと関連付けて見てしまいます。小中学校でどのように教育された学生が看護専門学校へ進学して来るのかを見ることが出来ますので、教育委員会の仕事は私自身のためにもなっています。

教育委員会では、形式的な議題も多いのですが、非公開の協議会という会議は、委員会で正式に議題になっていないこと、不登校や発達障害、先生方の状況など表面化しない問題について意見を交換し合う重要な会議です。これも、学校訪問で現場を知ることによって理解できたことがたくさんありました。

学校訪問で他の先生に診察をお願いする時は、超音波と内視鏡検査は止め、外来診療も制限する結果となりますので、通院する患者さんには不便をお掛けすることになります。ご協力をお願いいたします。

肝炎ウイルス検診

弘前市の死亡データを見ると、肝臓癌で亡くなる人が年間約80人です。多くの人が、肝炎ウイルスによって肝臓癌を発症しています。これまで、弘前市では40歳の時だけ肝炎ウイルスの検査を行っていましたが、この4月から、40歳以上でこれまで検査を受けたことがない人に対象が拡大されました。青森県の制度を使うと40歳以上でも肝炎ウイルスの検診を受けることが出来たのですが、手続きが面倒で普及しなかったのが実情です。

2年ほど前から、C型肝炎ウイルスを飲み薬で治療することが出来るようになりました。しかも、副作用がほとんどなく、治療効果がほぼ100%という優れた治療法です。そして、B型肝炎も飲み薬でコントロールで出来るようになりました。

肝臓癌で亡くなる人が多いこと、肝炎ウイルスを治療することが出来るようになったことから、弘

前市医師会では弘前市に対して、肝炎ウイルス検査を広く行い、肝炎ウイルスに感染している人を早く見つけて治療に結びつけることを提案してきました。

弘前市でも肝炎ウイルス対策の必要性を理解し、この4月から、40歳以上で、検査を受けたことがない人を対象に肝炎ウイルス検診を始めることになりました。特定健診や後期高齢者健診と同時に受けることが出来ますし、医療機関の請求事務なども格段に簡略化されました。

弘前市医師会健診センターの集計では、肝炎ウイルス検査は昨年1年間で22件行われていました。今年は、4月12件、5月117件、6月165件と飛躍的に検査件数が増加しました。これで肝炎ウイルスに感染していることが分かった人たちに対して、弘前市では毎年、受診状況を確認するフォローアップ事業を行なう予定です。この事業で、将来、肝臓癌で亡くなる人が少なくなることを期待しています。

沢田歯科クリニックの開業

外来に通院する患者さんからよく聞かれますので、ここで改めてお知らせいたします。私の次男の祐也は、10月初めに歯科医院を開業します。沢田内科医院で前に駐車場として使っていた場所に自宅兼歯科医院を建設中です。

神奈川歯科大学を卒業した後、弘大歯科口腔外科で研修しました。八戸の青森労災病院に勤務した後、再び弘大附属病院に勤務し、4年前から元寺町のオリオン歯科に勤務していました。7月でオリオン歯科を退職し、開業に備えることになっています。

祐也は、これまでのような虫歯の治療を主体とした歯科医院ではなく、予防に力を入れる歯科クリニックを運営するつもりようです。歯周病は心筋梗塞や糖尿病などにつながるだけでなく、認知症にも関連することが分かってきました。また、高齢になって起こる嚥下障害や誤嚥性肺炎も歯科領域と密接に関係しています。

近年、単純に歯科だけの領域に留まるだけでなく、

歯科医師の活動の範囲は次第に広がってきています。ここ数年、祐也は開業後の活動に備えていろいろ研修会に積極的に出席していました。一緒に働いてくれる職員も、予想していたよりも集まっているようです。理想とする歯科医療ができるように頑張るようですので、ご期待下さい。

私には娘もいます。当時高校2年生だった娘は、近くの歯科医院に通院していました。娘は若先生ではなく、暇なおじいちゃん先生を指名して診てもらっていました。老先生はいろいろ歯科のことについて話をしてくれたようです。医師になると言っていた娘はある日、「私、歯学部に行きます！」って進路を変えました。老先生が亡くなった時は、弘前へ帰ってきて通夜にも行っていましたので、進路に大きな影響を与えたことは間違いありません。大学で教官をしたあと、昨年7月に札幌市で歯科医院を開業しました。札幌市の大通公園の近くです。「アローデンタルクリニック」もよろしく！ホームページがあります。



工事中の沢田歯科クリニック